

上越市合併20周年記念式典に500人参加

振り返りには市民目線が必要

上越市合併20周年記念式典が17日、高田城址公園オーレンプラザで行われました。市民など約500人が参加しました。

最初に高田高校合唱部に皆さんが「このふるさとを」を合唱。市長、市議会議長の挨拶、県知事（代理）の祝辞のあと、イラストレーターの大塚いちおさん、水泳選手の石浦智美さん、西武ライオンズの滝澤夏央さんのビデオメッセージ、上越市内で活躍する4人の若者のトークがありました。会場ではカメラ撮影がダメかと思ひ、式典で配布された紙袋の余白にイラストを描きました。

注目した若者トークでは、「安全安心の農畜産物をつくり、子どもたちに見せ、子どもたちに自信を持ってもらいたい」「子どもたちの可能性を広げられる

教師になりたい」などそれぞれの持ち味を生かしたスピーチに引き付けられました。頑張ってもらいたいと思います。

合併の記念動画では、日ごろ付き合いのある人が活躍している場面はうれしく思いましたが、合併後市政を揺さぶったオーレンプラザや体操場ジムリーナがクローズアップされ、評価されたのには違和感を持ちました。もっと市民目線で振り返ってほしかったです。

それにしても、若い人たちの躍動する姿はいいですね。高田高校合唱部の「このふるさとを」の合唱、上越高校ダンス部の踊り、見事でした。

イラストは上越高校ダンス部の踊りと



若者トークです。

ノズルはより軽く、より安全に、より効果的にをめざし進化

市議会総務常任委員会は19日、上越地域消防局を訪れ、消防ホースやノズルについて説明を受けるとともに40ミリ口径と65ミリ口径のホース、ノズルを使った放水体験をしました。

40ミリは軽く、安全性が確保され、民間施設などで活用されている理由がよくわかりました。ノズルはより軽く、より安全に、より効果的にをめ

ざしてどんどん進化しています。



足環装着1時間後の親鳥のメスとヒナたち

昨年引き続き、吉川区で今年もヒナ3羽が4月上旬に誕生して1か月半近く経過しました。16日には、兵庫県のコウノトリの郷公園のスタッフなどが足環装着作業を行いました。巣の上のヒナたちの捕獲作業を行ったのち、テントでは全長（口ばしの先から尾羽の先までの長さ）、体重などを測定、番号入り足環を装着しました。測定の結果、ヒナたちの全長は74センチ、85センチ、87センチ。体重は3.3グラム、4.7グラムでした。今回ヒナにつけられた個体番号はJ08443、J08444、J08445となりました。ヒナたちの性別はDNA検査を行った上で発表するとのことでした。スタッフのみなさんの評価によれば、成長のスピードが一番遅かった小さなヒナも含め、全部が順調な成長をしているとのことでした。良かったです。

3羽のヒナに足環装着

【ツルウメモドキ】（再掲）。ニシキギ科の落葉つる性木本。漢字で「蔓梅擬」と書きます。いったいどこからやって来たのでしょうか、私の事務所脇の木にからんで薄緑色の花を咲かせていました。落葉後には橙赤色の種子が目立ちます。楽しみです。花期は5月～6月。花言葉は「開運」「大器晩成」など。20日、吉川区代石にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2204 2025.5.25

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL https://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い 第八五一回 百日目のライブ

月に一回、土日に行われるライブがコツと積み重ねられ、百日目になったというイベントがあります。直江津のライオン像のある館でほぼ毎月行われてきた「寄り道ライブ」がそれです。

「寄り道ライブ」は今年の四月二十六日、開催百日目という記念すべき日に到達しました。この日は上越市内だけでなく、長野県安曇野、三条、見附などからも歌い手さんが駆けつけ、素敵な歌を披露しました。

この日は記念すべき節目のライブだということもあって、お祝いの雰囲気が出ていました。なかでも、安曇野からやってきた歌い手さんは、この日のためにつくってきた「寄り道ライブの歌」を披露し、主宰者である川合徹人さんに手作りの「金メダル」をプレゼントして盛り上げておられました。

「寄り道ライブ」は二〇一九年七月にスタートしたとのことです。最初は三八市に合せて開催していたこともあり、朝市で宣伝行動をしていた私は時々「寄り道」しました。たいがいは三〇分くらいしか寄らなかつたのですが、たびたび感動のドラマがあつて、朝市宣伝の後に「寄り道」することが癖になっていきました。

何よりも素晴らしいと思ったのは、「上手いとか下手だとか関係なく、誰もが音楽を楽しみながら参加することができる」（旧三島郡からの参加者）ことです。たとえ聴衆が二、三人であっても、歌い終わってからの拍手にいつもニコツとする人がいました。嬉しいのでしょうか、拍手がなにかには、川合さんの「追っかけ」をやっていると言っていた女性が、いつの間にか聴衆の一人から歌い手の一人へと「発表」を遂げたケースもあります。この女性は百日目のライブでも自ら作詞、作曲した素敵な歌などを披露し、拍手を浴びていました。

この日の聴衆の中には初めて「寄り道ラ

イブ」に参加した人もいました。大湯区在住の山田護さんです。山田さんはこの二カ年ほどの間に三冊もの詩集を出した人です。私は「寄り道ライブ」で初めて山田さんの名前を知りました。山田さんが作詞し、川合さんが作曲した「春」という歌を二年ほど前に聴いて、ぜひこの人に会ってみたいと思いました。それが最初でした。

私と山田さんとの付き合いが始まったのはそれからですが、じつはこの日のライブには私が誘っていました。百日目の「寄り道ライブ」の数日前に、高田の仲町でコスモフィッシュというグループのコンサートがあり、そこでこのグループのみなさんが「春」を歌っていました。男性一人、女性五人によるハーモニーがとてもいい感じで、これは山田さんにも聴いてもらいたい、そう思いました。その際、コスモフィッシュさんが「寄り道ライブ」でも「春」を歌うとの情報が入っていたのです。

山田さんが参加したことによって「百日目の寄り道ライブ」は感動の連続となりました。コスモフィッシュのみなさんにとっては、作詞、作曲を担当した二人の前で初めて歌う「春」、ライオン像のある館はまさに雪解けの春いっぱいになりました。山田さんは「イエイ」を連発していました。

さらに川合さんがこの日、山田さんの詩集の中から「詩（うた）の花束」という詩を選び、曲をつけて発表したのです。山田さんは興奮し、「こんなこともあるんだね。最高の一日だ」と喜びました。このサプライズに私も酔いました。

「寄り道ライブ」は今月も二四日、二五日とライオン像のある館で開かれます。百日目を越えて、これまで歌ってきた人たちも新たな歌い手さんもさらに盛り上げる演出をしてくださるものと思います。あなたもちよいと覗いてみませんか。

平田真義さんの戦争資料展

上越市民プラザで開催されていた真宗大谷派新潟教区同朋社会協議会主催の「戦争といのちを考える」戦争資料展をみました。資料は板倉区の浄光寺前住職、平田真義さんが収集されたもので、全国的には10個ぐらいいしが残っていないといわれる教育勅語の現物や侵略先でおなかを壊した時に使った征露丸（正露丸）、神経を麻痺させるために使った覚せい剤ヒロポンなど600点もの貴重な資料が展示されていました。「武力には武力で」という声はまだ多くある中で、今回の資料展はとても重要だと思いました。



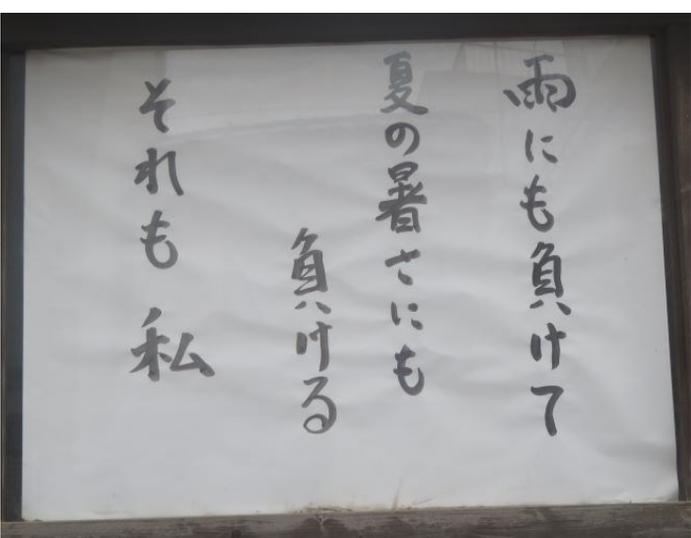
上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月14日(水)	5月21日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.057	0.053

聴信寺の掲示板

直江津は聴信寺の掲示板です。三八市で宣伝活動をする際、必ず見てきた掲示板です。今回書かれた言葉は、読んでホッとすると、まさに有難い言葉です。



春よ来い 第八五一回 百日目のライブ

月に一回、土日に行われるライブがコツと積み重ねられ、百日目になったというイベントがあります。直江津のライオン像のある館でほぼ毎月行われてきた「寄り道ライブ」がそれです。

「寄り道ライブ」は今年の四月二十六日、開催百日目という記念すべき日に到達しました。この日は上越市内だけでなく、長野県安曇野、三条、見附などからも歌い手さんが駆けつけ、素敵な歌を披露しました。

この日は記念すべき節目のライブだということもあって、お祝いの雰囲気が出ていました。なかでも、安曇野からやってきた歌い手さんは、この日のためにつくってきた「寄り道ライブの歌」を披露し、主宰者である川合徹人さんに手作りの「金メダル」をプレゼントして盛り上げておられました。

「寄り道ライブ」は二〇一九年七月にスタートしたとのことです。最初は三八市に合せて開催していたこともあり、朝市で宣伝行動をしていた私は時々「寄り道」しました。たいがいは三〇分くらいしか寄らなかつたのですが、たびたび感動のドラマがあつて、朝市宣伝の後に「寄り道」することが癖になっていきました。

何よりも素晴らしいと思つたのは、「上手いとか下手だとか関係なく、誰もが音楽を楽しみながら参加することができる」（旧三島郡からの参加者）ことです。たとえ聴衆が二、三人であっても、歌い終わつてからの拍手にいつもニコツとする人がいました。嬉しいのでしょうか、拍手がなにかには、川合さんの「追っかけ」をやっていると言つていた女性が、いつの間にか聴衆の一人から歌い手の一人へと「発表」を遂げたケースもあります。この女性は百日目のライブでも自ら作詞、作曲した素敵な歌などを披露し、拍手を浴びていました。

この日の聴衆の中には初めて「寄り道ラ

イブ」に参加した人もいました。大湯区在住の山田護さんです。山田さんはこの二カ年ほどの間に三冊もの詩集を出した人です。私は「寄り道ライブ」で初めて山田さんの名前を知りました。山田さんが作詞し、川合さんが作曲した「春」という歌を二年ほど前に聴いて、ぜひこの人に会ってみたいと思ひました。それが最初でした。

私と山田さんとの付き合いが始まつたのはそれからですが、じつはこの日のライブには私が誘っていました。

百日目の「寄り道ライブ」の数日前に、高田の仲町でコスモフィッシュというグループのコンサートがあり、そこでこのグループのみなさんが「春」を歌っていました。男性一人、女性五人によるハーモニーがとてもいい感じで、これは山田さんにも聴いてもらいたい、そう思ひました。その際、コスモフィッシュさんが「寄り道ライブ」でも「春」を歌うとの情報が入つていたので。

山田さんが参加したことによって「百日目の寄り道ライブ」は感動の連続となりました。コスモフィッシュのみなさんにとつては、作詞、作曲を担当した二人の前で初めて歌う「春」、ライオン像のある館はまさに雪解けの春いっぱいになりました。山田さんは「イエイ」を連発していました。

さらに川合さんがこの日、山田さんの詩集の中から「詩（うた）の花束」という詩を選び、曲をつけて発表したのです。山田さんは興奮し、「こんなこともあるんだね。最高の一日だ」と喜びました。このサプライズに私も酔いました。

「寄り道ライブ」は今月も二十四日、二十五日とライオン像のある館で開かれます。百日目を越えて、これまで歌ってきた人たちが新たな歌い手さんもさらに盛り上げる演出をしてくださるものと思ひます。あなたもちよいと覗いてみませんか。

平田真義さんの戦争資料展

上越市民プラザで開催されていた真宗大谷派新潟教区同朋社会協議会主催の「戦争といのちを考える」戦争資料展をみました。資料は板倉区の浄光寺前住職、平田真義さんが収集されたもので、全国的には10個ぐらいいしが残っていないといわれる教育勅語の現物や侵略先でおなかを壊した時に使った征露丸（正露丸）、神経を麻痺させるために使った覚せい剤ヒロポンなど600点もの貴重な資料が展示されていました。「武力には武力で」という声はまだ多くある中で、今回の資料展はとても重要だと思ひました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月14日(水)	5月21日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.057	0.053

馬場県議と橋爪市議を囲む会のご案内

日時：6月8日(日)14時~15時半
会場：吉川多目的集会場中会議室 入場無料

馬場県議が先に行われた臨時県議会における原発県民投票条例案審議の様態を、橋爪は米を中心とした地域農業とコウノトリの郷づくりについてそれぞれ15分ほど報告し、その後、参加者のみなさんの声をお聴きしたいと思ひています。よろしくお願ひします。